



# 地域緩和ケア連携調整員とは

国立がん研究センター がん対策研究所

がん医療支援部 がん医療支援企画室

佐野 智望



- 「がん治療病院」と「在宅医療等の地域医療を担う関係者」を含めた**地域のネットワークの構築を促す人材**
- 地域の課題を抽出し解決に向けた取り組みを行っていくための**事務局的な役割を担っていく者**

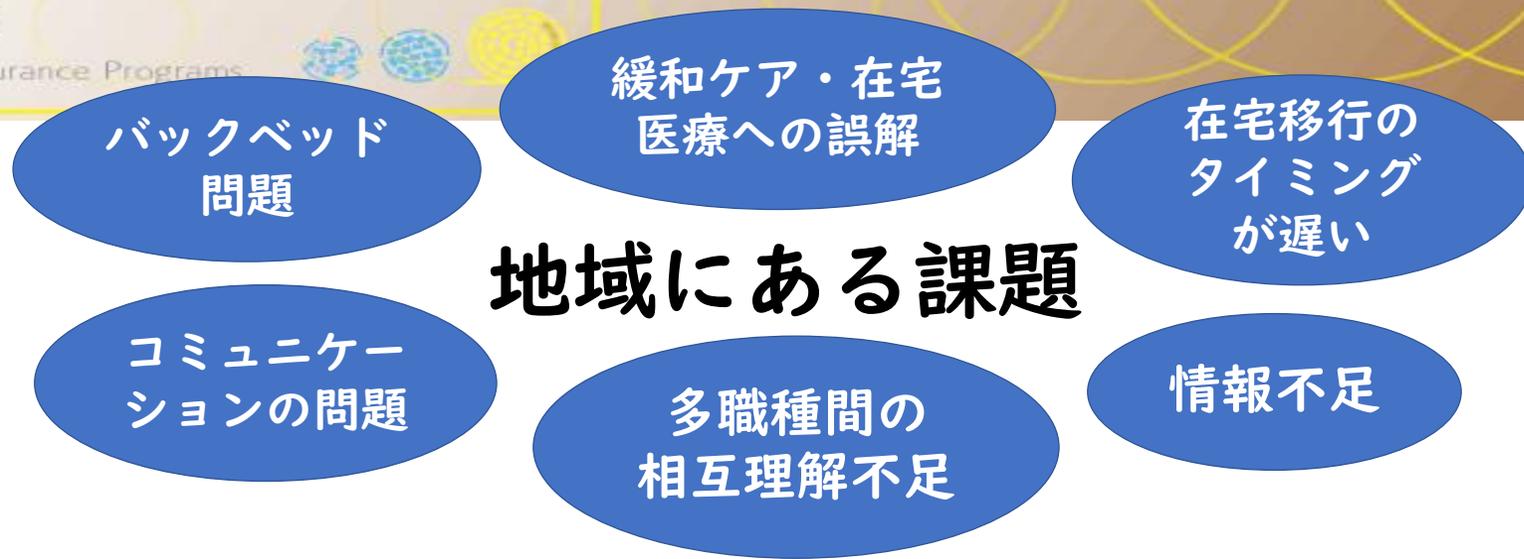
がん拠点病院の地域連携業務を担っている者を主に想定しつつ、その他、**地域内の医療機関等の地域連携担当者、医療介護総合確保推進法に基づく医療介護連携支援センターの連携担当者等**も候補者になりえる。

地域の中で複数の地域緩和ケア連携調整員が協力していくことが望ましい

**「地域緩和ケア連携調整員」を、「オプティマイザー (optimizer)」と呼んでいます**  
「optimize」は、「最大限活用する」「できるだけ効率的に利用する」「最適化する」という意味。  
地域リソースを効果的に最大限活用できる地域連携体制を目指すOPTIM プロジェクト (Outreach Palliative care Trial of Integrated regional Model) にも、ちなむものです

1)がん対策のための戦略研究「緩和ケア普及のための地域プロジェクト」：<http://gankanwa.umin.jp/>

2)Morita T, et al. Effects of a programme of interventions on regional comprehensive palliative care for patients with cancer: a mixed-methods study. Lancet Oncol. Jun;14(7):638-46,2013



地域の課題を解決することを目的に  
がん診療連携拠点病院は  
「地域緩和ケア連携会議」を定期的を開催することが定められた



がん診療連携拠点病院と地域との連携関係が乏しかった場合、  
地域の職能団体の代表者等を突然集めて、会議を開催したとしても  
必ずしも有意義な話し合いができず、課題解決に至らないことも多い

バックベッド  
問題

緩和ケア・在宅  
医療への誤解

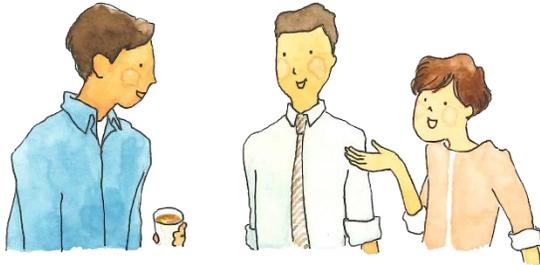
在宅移行の  
タイミング  
が遅い

## 地域にある課題

コミュニケー  
ションの問題

多職種間の  
相互理解不足

情報不足



第一段階  
顔の見える関係づくり

第二段階  
体制づくり

第三段階  
地域づくり

第二段階である「地域緩和ケ  
ア連携会議」は、顔の見える  
関係があって初めて機能する



すべてのがん患者・家族が、自身の意向に沿った療養が  
可能な限りできる、適切な緩和ケアが提供される地域



# 地域緩和ケア連携調整員の役割

## ●顔の見える関係づくり

地域内の既存のネットワーク等を活用しながら、地域内の関係者が顔を合わせて意見交換を行える場を作り、基盤となる顔の見える関係づくりを進める

## ●体制づくり

拠点病院の院長や郡市医師会などの地域内のキーパーソンのバックアップのもとで、緩和ケア関係者が集まり地域の緩和ケア連携の課題等について話し合う場の設定を行う

## ●地域づくり

地域の緩和ケア連携の課題解決に向け、その地域に沿った取り組みを行う事務局的な活動を担い、がん患者の方々が地域内で適切な緩和ケアを受けられることができるよう、地域連携の課題の解決を目指す

地域全体で、がんにおける緩和ケアを提供できる基盤を作っていくため、地域のがん医療と緩和ケアに関する医療福祉機関、職能団体等が円滑に連携できるよう、関係者間のネットワーク構築を促す活動を行う現場の担い手



## (1) 現場レベルでのネットワークづくり

地域の緩和ケアに携わる主な関係者や地域のキーパーソンが参加するコミュニケーションの場を作る

- 各職能団体や各種ネットワーク、勉強会等の既存のコミュニティを利用する
- 合同での研修会や講演会等イベントの開催する

※場の継続性が重要

## (2) 多職種連携の促進

顔の見える関係から何をしているかが分かる関係へ

- 多職種間の相互理解を促す

お互いの専門性を知り、職種や現場の違いで見方が異なることを共有し、役割の明確化や関係構築の促進を図る

- 福祉職との連携の強化



## 市町村を越えた、より広範囲な地域連携活動に向けた準備

### ■地域の連携体制を担う組織づくり

- ・ 会議体などの場の設定、会の位置づけや趣旨の明確化
- ・ 各職能団体やキーパーソンをつなぐ

### ■組織(体制)の継続的な運営

#### 運営の工夫：

- ・ 他職種、複数人での運営
- ・ 運営事務局の設置、位置づけ
- ・ 病院長や医師会などのバックアップ





## 地域の課題への取り組みを開始

### ■ 基盤となる顔の見える関係の上で、連携における課題を抽出し、地域の緩和ケア関係者で共有する

→必要であれば、課題解決を目指したワーキンググループや研究会などを立ち上げる

### ■ 地域リソースを把握する

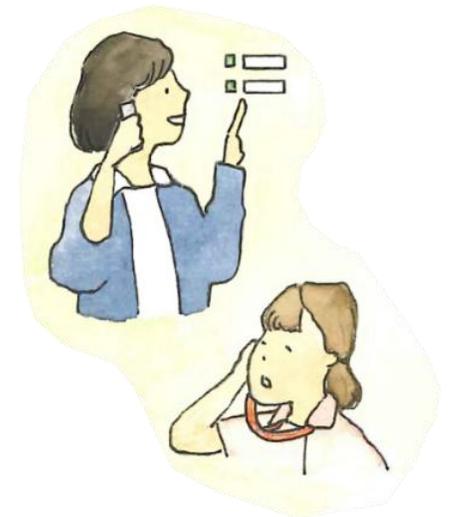
- ・各事業所の特徴やできることを把握し、取りまとめを行う
- ・集約したリソースの共有

### ■ システムの整備

- ・地域連携におけるルール作り & 周知
- ・システムやツールの作成(二人主治医制、相談窓口、CFシートの統一、リソースマップ、連携マニュアルなど)

### ■ 在宅医療や緩和医療の啓発活動

- ・急性期病院の医療従事者、地域の医療福祉職へ：研修、勉強会など
- ・地域住民へ：市民講座、シンポジウム、サロン、パンフレット、ホームページなど
- ・行政へ



# 【現場レベルの会議】

=顔の見える関係づくり



## 現場のニーズ

地域緩和ケア連携会議



- ・研修会や勉強会でのアンケートやGW(KJ法)、話し合いによる困りごと抽出
- ・カンファレンスや症例検討会などで、地域連携のあり方や各施設の関わり方の改善点について議論する時間を設ける

## 地域づくり

2つのレベルの会議が有機的に連携することで、現場が本当に困っている地域の課題を解決する具体策が定められ地域内に広がる



## 地域を変えていく仕組み

参加者例

- ・地域内の拠点病院
- ・各職能団体
- ・地域の基幹病院、PCUのある病院
- ・地域で在宅緩和ケアに尽力している在宅医
- ・看取り実績の多い訪問看護ステーション
- ・麻薬を取り扱っている調剤薬局
- ・地域包括支援センター
- ・行政のがん対策担当、高齢福祉担当 etc...

# 【責任者レベルの会議】 ←地域緩和ケア連携会議

=体制づくり



# 活動例



在宅医の困りごと抽出



地域で開催されている勉強会等の情報を集めて地域内に周知する



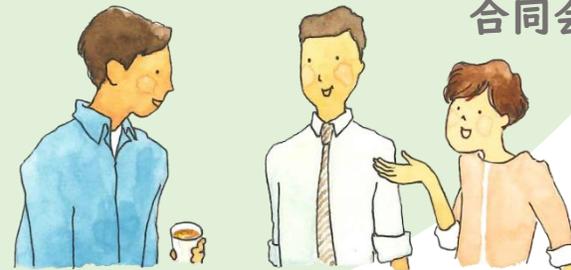
カンファレンスや症例検討会に参加し、各施設の関わり方や改善点を考える



合同会議等を企画・運営する

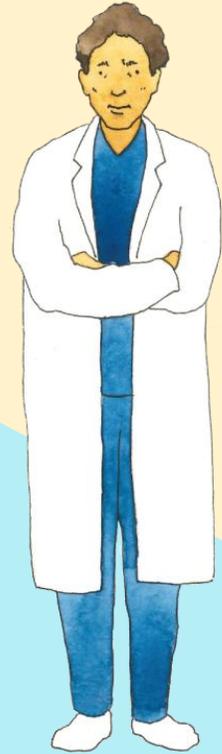


関係者間でスムーズにコミュニケーションが図れるよう気を配る



医師とケアマネジャーをつなぐ

# ネットワークを築いていく活動を牽引する 旗振り役と事務局機能を果たすチームが必要！！



## 【地域緩和ケア連携調整員・事務局】

地域のキーパーソンや各施設、各職能団体の状況を把握しており、地域の関係者と直接やりとりをしている者。  
実務を担う地域連携の要



## 【リーダー・旗振り役】

がん診療連携拠点病院などに所属し、地域（二次医療圏）全体の緩和ケアの連携を進めていく立場にいる者。  
地域の緩和ケアについて「現場の意見」を取りまとめていく役割を担う

## 【バックアップ・世話人】



がん診療連携拠点病院長、各職能団体や協議会、既存のネットワークの代表、行政関係者など、地域の中の決め事を決定することができる立場にいる者。  
地域緩和ケア連携調整員が活動しやすい環境を作り、連携体制の整備を支援する